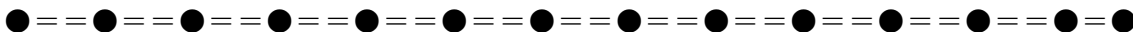


B i o T e c h T O K A I ーメールマガジン 第144号ー

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会



**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成28年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術
● 移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
● ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 平成28年度第3回セミナー
● (12月13日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
● ☆平成28年度 Mip 特許塾「三度の飯より特許塾～攻守の要は知財なりの巻～」
● (1月27日)
● ☆起業講座シリーズ ー 21世紀に輝く女性たちー起業・産業・地域・世界の様
● 々な「場」で活躍する女性たちの「働き方」「生き方」 (12月14日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
● ☆アグリビジネス創出フェア2016(東京ビッグサイト) (12月14～16日)
● ☆農林水産省等のイベント情報のURL
- 4. 競争的研究資金について
● ☆「知」の集積と活用場による研究開発モデル事業(平成28年度補正予算)
● (農研機構 生研支援センター)
● ☆革新的技術開発・緊急展開事業(うち人工知能未来農業創造プロジェクト)
● (農研機構 生研支援センター)
● ☆革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)
● (農研機構 生研支援センター)
● ☆産学共同実用化開発事業(NexTEP)平成28年度一般タイプ(通常募集)(JST)
● ☆産学共同実用化開発事業(NexTEP)平成28年度未来創造ベンチャータイプ
● (通常募集)(JST)
● ☆研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)ステップ3:NexTEP-Aタイプ
● (平成28年度第2回) (JST)
● ☆ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
● ☆民間の競争的研究資金を19件掲載
● ☆研究開発関連以外の補助金を1件掲載
- 5. 新技術情報
● ☆農林水産・食品分野の新技術の紹介(2件)

◆ 1 ◆ 平成28年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術
移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆ NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 平成28年度第3回セミナー
「農産物・食品の輸出促進のための諸対策」

生物系先端技術に関する研究開発成果等の理解を深めるため、最新の先進的研究・利用事例、研究開発を取りまく情勢等についてセミナーを開催する。本セミナーのテーマは、「農産物・食品の輸出促進のための諸対策」とし、企業・団体、大学、試験研究機関等の産学官の参加者が情報交流することにより、東海地域における農林水産・食品産業分野の研究開発とその実用化、輸出促進に資する。

【開催日時】平成28年12月13日（火）13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち（愛知県産業労働センター）12階 1202会議室
名古屋市中村区名駅4丁目4-38 Tel: 052-571-6131

【演題・講師】

13:30～14:30

1) 「花き類輸出の現状と課題」

愛知豊明花き流通協同組合理事長 永田晶彦 氏

14:30～15:30

2) 「最新のCAコンテナ輸送による鮮度保持技術と青果物輸出の取組み事例」

株式会社MTI 取締役・営業グループ長 田村健次 氏

～休憩～

15:40～16:40

3) 「諸外国における残留農薬基準値と輸出用茶の生産対策」

農研機構 果樹茶業研究部門 茶病虫害ユニット長 佐藤安志 氏

【開催要領】 http://www.biotech-tokai.jp/acv/pdf/H28dai3kaisemi_kaisaiyouryou.pdf

【主催】NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会／農林水産省

【後援】農研機構 中央農業研究センター、(公社) 農林水産・食品産業技術振興協会

【参集範囲】NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会会員、農林水産・食品産業関連
企業、農業団体、食品関係団体、大学・高校等教育機関、国立研究開発法人、
独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、その他

【併催】技術相談（1202会議室）：16:40～17:00 予約制

相談対応：農林水産省産学連携支援コーディネーター

【情報交流会】1206会議室：17:00～18:30 参加費2,500円

【参加申込み】上記の開催要領のURLに添付した参加申込書を印刷し、ご記入の上、下記
のFAX、あるいはメールの宛て先にご送付ください。

TEL&FAX: 052-789-4586

E-mail: bio-npo2@y4.dion.ne.jp

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆平成28年度 Mip 特許塾「三度の飯より特許塾 ～攻守の要は知財なりの巻～」
(三重大学)

【開催日時】平成29年1月27日(金)～2月10日(金)の間に2回開催

【開催場所】三重大学 社会連携研究センター 3階 研修・会議室

【対象者】三重県内の企業の方と教員及び学生、知的財産に関する知識を深めたい方

【参加】参加費無料、定員各回20名(定員になり次第、申し込み締切)

【日程】

◇第3回 平成29年1月27日(金)18:00～20:10

「広くて強い特許はどのように作られるのか～保護範囲が広く、しかも無効にされないために～」講師 日本大学大学院知的財産研究科教授 加藤 浩氏

◇第4回 平成29年2月10日(金)18:00～20:10

「知恵と知財でがんばる企業の考え方～強い企業は特許・ノウハウ戦略を持っている～」
講師/未定

【案内チラシ】http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/pdf/20161028~20170210_Mip.pdf

【問い合わせ先】三重大学 社会連携研究センター 知的財産統括室

TEL:059-231-5495 FAX:059-231-9743

E-mail:chizai-mip@crc.mie-u.ac.jp

☆起業講座シリーズ - 21世紀に輝く女性たち一起業・産業・地域・世界の様々な「場」
で活躍する女性たちの「働き方」「生き方」 (名城大学)

【開催日時】平成28年12月14日(水)～1月11日(水)の間に3回開催

【開催場所】名城大学天白キャンパス 共通講義棟北1階 N-101(名城ホール)

地下鉄鶴舞線 塩釜口下車、1番出口(右)徒歩4分

【開催案内】<http://www.meijo-u.ac.jp/event/detail.html?id=dYBNcl>

【参加】参加費無料、参加者は直接会場へおいで下さい。定員600名

【問い合わせ先】名城大学経営学部事務室 TEL:052-838-2051

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆アグリビジネス創出フェア2016(東京ビッグサイト)

「アグリビジネス創出フェア2016」は、全国の産学の機関が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで紹介し、研究機関間や、研究機関と事業者との連携を促す場として開催する技術交流展示会です。

【開催期間】平成28年12月14日(水)～12月16日(金)

3日間とも午前10時開場、午後5時閉場

【会場】東京ビッグサイト 西4ホール (東京都江東区有明3-1-1)

【アグリビジネス創出フェア 2016 ホームページ】 <http://agribiz-fair.jp/teaser/>

【入場料】無料

【主催】農林水産省

.....
○農林水産省農林水産技術会議事務局では、農林水産関係の国立研究開発法人等の開催するイベントを紹介しています。イベントカレンダーのURLは下記の通りです。

<http://sto.affrc.go.jp/event/calender>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成28年度競争的研究資金等について

☆「知」の集積と活用による研究開発モデル事業 (平成28年度補正予算)

(農研機構・生研支援センター)

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/knowledge/koubo/h28/index.html>

分野等：

1. AIを活用した果実の自動箱詰めロボット技術の開発
2. AI、ICT等を活用した魚介類の流通支援システムの開発
3. AI等を活用した農業インフラメンテナンス技術の開発

公募期間：平成28年11月21日～12月20日

.....
☆革新的技術開発・緊急展開事業 (うち人工知能未来農業創造プロジェクト)

(農研機構・生研支援センター)

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/aipro/koubo01/index.html>

分野等：

1. 畜産・酪農

課題 1. AIを活用した家畜疾病の早期発見技術の開発

課題 2. AI や ICT 技術を活用した周年親子放牧による収益性が高く低コストな子牛生産技術の開発

課題 3. 乳用牛の泌乳平準化と AI の活用による健全性向上技術の開発

課題 4. AI を活用したロボット技術等による牧草生産の省力化・自動化技術の開発

2. 園芸

課題 1. AI を活用した施設野菜収穫ロボット技術の開発

課題 2. AI を活用した露地野菜収穫ロボット技術の開発

課題 3. AI を活用した果実収穫ロボット技術の開発

公募期間：平成28年11月21日～平成29年1月6日

☆革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）

（農研機構 生研支援センター）

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo01/index.html>

分野等：生産性向上や差別化、輸出など、国が定めた技術戦略に沿って、企業、大学、研究機関、農林漁業経営体等が総力を結集して実証研究を行うものであり、「地域の競争力強化の方針（地域戦略）」と「地域戦略の実現に必要な技術体系の開発計画（研究計画）」を一体的に策定した「地域戦略・研究計画」の公募を行う。

公募期間：平成28年11月21日～平成29年1月10日

☆産学共同実用化開発事業（NexTEP）平成28年度一般タイプ（通常募集）（JST）

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成28年10月26日～平成29年3月31日

☆産学共同実用化開発事業（NexTEP）平成28年度未来創造ベンチャータイプ

（通常募集）（JST）

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成28年10月26日～平成29年3月31日

☆研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）ステップ3；NexTEP-Aタイプ

（平成28年度第2回）

分野等：企業ニーズを踏まえた、企業による大学等の研究成果に基づく研究シーズの実用化開発を支援する。

公募期間：平成28年11月30日～平成29年3月31日

☆ICTイノベーション創出チャレンジプログラム（I-Challenge!）

（総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000167.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1)いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2)G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3)以心伝心ICTサービス基盤
- (4)フレンドリーICTサービス技術
- (5)社会インフラ維持管理サービス技術
- (6)レジリエント向上ICTサービス技術
- (7)車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトをはじめ、幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、POC (Proof of Concept : 概念検証) に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成28年4月21日～(28年度中はいつでも応募可能)

.....

民間等研究資金

☆公益財団法人エリザベス・アーノルド富士財団：「平成29年度学術研究助成」

<http://www.fujizaidan.or.jp/bosyuu.html>

分野等：

- 1. 米、麦等に関する研究
- 2. 米、麦等を原料とする食品の生産・加工・流通・生理的機能性等に関する研究
- 3. 米、麦等を原料とする食品製造における技術の向上発展に関する研究
- 4. 米、麦等を原料とする食品製造における機械の向上進歩に関する研究

公募期間：平成28年11月1日～12月14日

.....

☆日本中央競馬会：「平成29年度日本中央競馬会畜産振興事業」

<http://company.jra.jp/0000/chikusan/kobo/kobo.html>

分野等：畜産の振興による食料自給率の向上、多様な畜産経営の育成及び安全・安心な畜産物の供給を目的とし、畜産の現場への即時応用を前提とした技術の研究開発、調査研究及びこれらの成果を含む畜産経営に対する適切な情報提供等を行うものとする。具体的には、現状の課題を踏まえた必要性や緊急性、新技術の応用等の新規性、国等が実施している畜産関連施策の補完効果が高く、効果並びに目的と手段が明確な、次の各項目に掲げるものとする。

- 1. 自給飼料の生産・利用の促進
- 2. 担い手の確保 (特定の地域における担い手の確保を含む)
- 3. 経営改善の助長・支援
- 4. 多様な形質の家畜改良と効率的な飼養管理技術の普及
- 5. 畜産物の生産・流通対策
- 6. 畜産に係る環境問題の対策
- 7. 家畜衛生の向上のための対策

8. その他畜産振興に資するもの

公募期間：平成28年10月24日～12月21日

☆粉体工学情報センター：「2017年度（第13回）研究助成」

<http://www.icpt.jp/kenkyuu/index.html>

分野等：1. 食品粉体に関わる研究、2. 粉体単位操作に関わる基礎研究

公募期間：平成28年10月3日～12月26日

☆公益財団法人サッポロ生物科学振興財団：「2017年度研究助成」

<http://www.sapporoholdings.jp/foundation/koubo/index.html>

分野等：1. 消費者を知る、
2. 「おいしさ」を探す、
3. 「おいしさ」をつくる、
4. 「おいしさ」を保証する

公募期間：平成28年11月1日～12月26日

☆公益財団法人水産無脊椎動物研究所：「2017年度個別研究助成・育成研究助成」

<http://www.rimi.or.jp/josei/JOSEINEW.html>

分野等：水産（水棲）無脊椎動物（昆虫類を除く）の形態・発生・生理・分類・系統
・生態・行動などに関するフィールドでの生物学的な調査研究

公募期間：平成28年9月29日～12月31日

☆カクタス・コミュニケーションズ株式会社：「エディテージ研究費」

<https://www.editage.jp/editage-grants.html>

分野等：40歳以下で過去2年間科研費申請をしており、その採択を受けていない
自然科学、人文科学、社会科学の全分野の研究者

公募期間：平成28年10月5日～12月31日

☆造船学術研究推進機構：「平成29年度研究テーマ募集」

<http://www.sajn.or.jp/redas/>

分野等：

1. 造船・船舶関連テーマ

- (1) 船舶の燃費低減に関連する研究
- (2) 海洋の環境保全に関連する研究
- (3) 船舶の安全航行に関連する研究
- (4) 船体構造の合理化および長寿命化に関連する研究
- (5) 船舶建造の合理化に関連する研究

2. 海洋技術関連テーマ

- (1) 海洋エネルギー資源（メタンハイドレート、洋上風力発電等）の開発に関

連する研究

- (2) 海洋環境保全システムの開発に関連する研究
- (3) 低炭素型シームレス物流の開発に関連する研究

3. その他関連テーマ

船舶・海洋に関連する先端技術の基礎的研究（造船・海運分野の産業基盤を強化する新規性の高い応用的研究含む）

公募期間：平成28年10月27日～12月31日

.....
☆一般財団法人材料科学技術振興財団：「研究助成」

<http://www.mst.or.jp/corporate/tabid/542/Default.aspx>

分野等：原則として先端的な科学技術分野における新材料に関連する基礎的研究ならびにそれら材料の物性評価測定方法に関するもの、もしくはバイオ関連分野についての基礎的研究及び解析評価に関するもの。

公募期間：平成28年11月21日～12月31日

.....
☆一般社団法人Jミルク：「平成29年度『牛乳乳製品健康科学』学術研究」

http://m-alliance.j-milk.jp/koubo/2017/H29_kenko.html

分野等：

- 1. 特定研究：最近の社会的課題や研究ニーズに対応したテーマに関する研究
 - (1) スポーツにおける牛乳乳製品の栄養的意義に関する研究
 - (2) 牛乳乳製品が免疫機能に及ぼす影響に関する研究
 - (3) 牛乳乳製品とメンタルヘルスに関する研究
- 2. 一般研究：当該研究領域に関連する幅広い視点や新規性のある研究
 - (4) 各ライフステージにおける健康と牛乳乳製品

公募期間：平成28年10月1日～12月31日

.....
☆一般社団法人全日本コーヒー協会：「平成29年助成対象研究募集」

<http://coffee.ajca.or.jp/news/othernews/h29subsidize>

分野等：Human Healthに関するコーヒーの効用全般についての研究

公募期間：平成28年12月14日～平成29年1月14日

.....
☆公益財団法人日本食品化学研究振興財団：「平成29年度研究等助成」

<http://www.ffcr.or.jp/>

分野等：

- 1. 一般研究助成
 - (1) 食品添加物の安全性等に関する研究
 - (2) 食品添加物の有用性、性能および使用技術等に関する研究
 - (3) 食品添加物の品質、規格および製造方法等に関する研究
 - (4) その他食品化学領域における調査・研究
- 2. 課題研究助成

- (1) 食品添加物の体内動態および生体に対する影響に関する研究
- (2) 食品添加物を利用した食品および食品素材の保存・安定性向上に関する研究
- (3) 各種精油、果汁、果実等の天然香料の基原動植物および食品に含まれるフレーバー成分の化学的研究
- (4) 高齢者・病者・障害者等のため食品添加物を利用した食品・食品成分補給方法の開発研究
- (5) 各国における食品添加物規制の実際と比較に関する調査、研究

公募期間：平成28年11月15日～平成29年1月15日

☆公益社団法人新化学技術推進協会：「第6回新化学技術研究奨励賞」

http://www.jaci.or.jp/recruit/page_02_06_2017.html

分野等：

特別課題：災害時の安全・安心の確保、被害の軽減と災害からの復旧・復興に貢献する化学技術に関する研究

課題1：グリーン・イノベーションを推進するための資源・プロセス・評価技術に関する環境技術の研究

課題2：新しい資源代替材料・技術の創製、および資源の節約・回収・再利用に関する基盤的研究（エネルギー資源、食料・水資源を含むものとする）

課題3：バイオマスの構造を活かした高機能材料および化学品に関する研究

課題4：創電・エネルギー貯蔵分野における革新素材・技術に関する研究

課題5：エレクトロニクスの未来を支える新規材料・技術・プロセスに関する研究

課題6：マイクロナノシステム用途の拡大につながる新規な材料・プロセスおよびデバイス技術に関する研究

課題7：高効率物質生産に必要な新規バイオプロセスの構築に関する研究

課題8：生体分子を利用した、またはその構造と機能に着想した新規機能性材料の実用化を目指した研究

課題9：材料の設計・製造・解析・評価を先導する計算機を活用した研究

課題10：日本のものづくり強化と新産業創出に資する「新素材」実現のための基礎的・基盤的研究

課題11：革新的触媒技術による次世代グリーンイノベーション創出に関する研究

公募期間：平成28年11月14日～平成29年1月16日

☆公益信託伊藤徳三ひまし研究基金：「平成29年度研究助成金」

<http://www.smtb.jp/personal/entrustment/management/public/example/list.html>

分野等：ひま種子、ひまし油、ひまし油誘導体（リシノール酸、セバシン酸、ウンデシレン酸、2-オクタノール、12-ヒドロキシステアリン酸等）に関する次の研究を対象とする。

- 1. ひまし油・ひまし油誘導体の精密化学変換に関する研究
- 2. ひまし油・ひまし油誘導体を利用する機能材料及び生物活性物質に関する研究
- 3. ひま種子の増産に資する育種及び栽培技術に関する研究

4. 上記1～3以外のひまし油関連産業の発展に資する基礎・応用研究
公募期間：平成28年11月18日～平成29年1月20日

.....
☆一般財団法人旗影会：「2017年度研究助成」

<http://www.nakashima-foundation.org/kieikai/entry/index.html>

分野等：

<一般助成> 以下の分野に関する研究

1. 畜産（生産および加工）
2. 農産（生産および加工）
3. 食品工業（食品工学、食品化学、食品機能、食品衛生、調理科学など）

<特別助成> 一般助成に示す分野のうち、タマゴに関する研究（タマゴの新規活用、健康機能、衛生、調理科学、食文化など）

公募期間：平成28年12月上旬～平成29年1月31日

.....
☆公益財団法人深田地質研究所：「平成29年度深田研究助成」

<http://www.fgi.or.jp/?p=3207>

分野等：

1. 地質学に関する研究・調査
2. 応用地質学に関する研究・調査
3. 地球物理学に関する研究・調査
4. 地盤工学に関する研究・調査
5. 環境工学に関する研究・調査
6. 防災工学に関する研究・調査

公募期間：平成28年12月1日～平成29年2月3日

.....
☆特定非営利活動法人日本分子生物学会：「第7回（2017年）日本分子生物学会
若手研究助成」

<http://www.mbsj.jp/admins/tomizawafund/7th-boshuu.html>

分野等：分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る若手研究者

公募期間：平成29年1月13日～2月10日

.....
☆公益財団法人山田科学振興財団：2017年度研究援助」

http://www.yamadazaidan.jp/jigyo/bosyu_kenkyu.html

分野等：自然科学の基礎的研究

公募締切日：平成29年2月24日

.....
☆一般財団法人糧食研究会：「2017年度研究テーマ募集」

<http://www.ryouken.or.jp/josei/index.html>

分野等：食品機能、健康・栄養、食品加工技術、食品安全などに関する研究

公募期間：平成28年11月18日～平成29年2月28日

☆一般財団法人杉山報公会：「平成29年度研究助成金」

<http://www.sugiyama-houkoku.or.jp/joseib.html>

分野等：主として「健康な暮らしを支える産業に寄与することを目的とする研究」とし、
医薬、食品、健康、環境、衛生等の分野に結びつく研究領域とする。

公募期間：平成28年9月1日～平成29年3月31日

研究開発関連以外の補助金

☆平成28年度補正・革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金

(全国中小企業団体中央会)

http://www.chuokai.or.jp/hotinfo/28mh_koubo_2016nov-.html

分野等：国際的な経済社会情勢の変化に対応し、足腰の強い経済を構築するため、経営力向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行う中小企業・小規模事業者の設備投資等の一部を支援する。

公募期間：平成28年11月14日～平成29年1月17日

◆ 5 ◆ 新技術情報

☆農林水産・食品分野の新技術情報の紹介

○米麦・大豆関係：麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアルの改訂

農研機構 九州沖縄農業研究センターは、麦赤かび病菌によるかび毒発生を低減するためのマニュアル改訂を行いました。我が国の麦栽培においては、栽培後期に降雨が多いために赤かび病が発生し易く、赤かび病が発生すると赤かび病菌によるかび毒(デオキシニバレノール；DON、ニバレノール；NIV)の汚染が起こる場合があります。麦類のかび毒汚染を低減するため、2008年12月に農研機構赤かび病研究チームは「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル」を作成し、公表しています(2008年度普及成果情報)。今回、このマニュアルを、科学的根拠に基づき全面的な改訂、高度化を図りました。

・農研機構ホームページ(2015年成果情報)：

http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2015/15_062.html

○食品関係：交流電界技術を用いた加工食品の高品質化

農研機構 食品総合研究所食品工学研究領域(現在は、食品研究部門)は、「野菜ジュースの殺菌や酵素失活のために交流高電界技術を用いると極短時間で高い殺菌効果が得られ、加熱による品質劣化も抑制される。また、開発した交流中電界技術による味噌の連続酵素失活処理が可能となり、高品質の出汁入り味噌が製造できる。」とする研究成果を公

表しました (2015 年度成果情報)。

・成果の概要は下記の URL でご覧いただけます。

http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nfri/2015/15_076.html

編集後記

1 2 月も半ば近くとなり、1 年の経つのが早く感じられます。今年もいろいろなことが起こりました。トランプ米国大統領の登場による世界の不透明性の増大、移民対応を契機とする欧州統合の危機、TPP の発効不能、異次元金融緩和やマイナス金利などの未知の経済実験、新都知事誕生によるオリンピック既得権益の見直しなど、世の中はダイナミックに動いています。オリンピック・パラリンピック東京大会が3 年半後に迫る中、「持続可能な発展」がオリンピック憲章に規定されていますが、「持続可能」な食材等の調達基準がまだ検討中であり、その早期確定と生産とサプライチェーンをどうするのが問われています。

ところで、最近読んだ本に「アマゾンと物流大戦争」(NHK 出版新書、2016 年 9 月発刊) があります。著者は、米国のビジネス事情に詳しく、国内ナンバーワンの通販専門物流会社を設立・運営する物流の専門家です。多くのビジネス関係者は、アマゾンと自社のビジネスとは無関係と思っているが認識不足であると指摘しています。「ロジスティクスを制するものはビジネスを制する」と看破しています。アマゾンは米国で小売業界の雄であるウォルマートと覇権を争い、日本でも業界第 6 位に躍進しつつあります。書籍のネット通販から始まったアマゾンのビジネスは今や家電やあらゆる商品に広がり、翌日配達、一定額以上で送料無料、土日配達、配送拠点の整備等、着々とロジスティクス強化を図り、追従が困難になりつつあります。将来的に、日本の小売業のみならずモノづくり企業も、ロジスティクスを支配するアマゾンに商品の低価格供給を求められ、苦しい経営を余儀なくされる可能性があります。本書には、「アマゾンが変えていくビジネスの世界、アマゾンの戦略とその正体」等について書かれており、ビジネスマンの誰もがそれらを知って、企業戦略を考えていく上で必読の書と思われる。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-tech.co*go8.enjoy.ne.jp *を@に書き換えてください

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>